

銀友

本郷学園
同窓会誌
平成13年6月1日
第30号



大前祐介君

世界に羽ばたく

本郷
高校生



北島康介君

總會のお知らせ

日時 平成13年6月16日 15:00より
場所 本郷学園会議室
(懇親会は17:00より)

ご挨拶

同窓会会長
村松達夫 (中十七回)



でも益々足音高く歩んでいることはご同慶に堪えません。

同窓会はいま、先輩や同期生に推され、奨められた手辨当の有志諸君を中核に、学校の協力を得て活動していますが、この母校の栄光の歴史を明日へ繋げていくためには、これを支える一翼としての同窓生の輪を、より汎く厚く拡げて会員相互の一層の親睦を深め、その原動力に昇華されなければと思います。

最近新聞、雑誌等で本郷学園の進学状況の好調さ、部活の輝かしい成果、同窓会便りなど目にするととき母校を通じての青春の懐旧に一瞬の至福を感じます。

この両三年、学校のご配慮で文化祭に同窓会ブースを開いて年毎に多くの来場者を集めていますが、同窓生に母校への関心を少しでも寄せ

てもらえばと願っています。今年も九月二十二、四日の両日開催されますが、より豊かな趣向での出展を考えています。

また放課後の校庭、或いは道場に繰広げられる各部活の逞しい運動振りに、時に心得のある先輩が在校の後輩と交歓する光景が重ねられればという思いも一入で、卒業の後にも部活などを通じ先輩、後輩の交流が続けられれば母校の発展にも大いに寄与することになるのではないかと希っています。

IT時代、同窓会のホームページも開設されていますから序での時に同窓会の近況にも触れていたいただければと念じています。

ご挨拶に代えて思いついたままを駄文に連ねましたが、烏滸がましい会長職に何分のご助言、ご協力をお願いいたします。

四月十四日の理事会で会長をお引受けすることになりました。

わが本郷学園同窓会は昭和三年卒業の第一回生に始まり今年七十四年を経て、送り出された同窓生二万六千人を数えます。母校本郷学園も来年初立八十周年を迎えます。そしてこの永い伝統に培われた栄えある歴史を近年進学校とし

ご挨拶

松平頼武

（本郷学園理事長
本郷中学・高等学校校長）



めているところであります。

本年の大学入試の実績は進路決定者が六十％と数値上はまずまずの結果ですが、国立上位校合格者を増やしていくべく、来年に向け準備が始まりました。

本校への入試については、中学校入試はお陰様で応募者が多く、高いレベルの生徒が入学して参り、新しい中学生生活を始めました。

高校については高いレベルの生徒を望んだため募集定員割れとなりました。

本校では昨年は高校三年生の北島康介君がオリンピック選手——100m平泳ぎで四位という立派な成績を残してくれました。大前裕介君が世界ジュニア陸上選手権出場——200mで五位、4×100mリレーで三位（銅メダル）とこれも素晴らしい結果でした。彼らには全生

徒が声援を送り皆が興奮をしたという出来事がありました。

同窓会の皆様も応援ありがとうございました。兩名共、四年後のオリンピックに向けて大いに進学してゆきました。私共も楽しみにしています。

私はつねづね、先輩と後輩のつながり、学校内では運動部、文化部、生徒会の年のちがう生徒間の交流が大切であると云っています。ぜひ卒業された先輩と在校生との交流も活発に行って参りたいと考えています。先輩の講演などもお願しいたいし、特に大学生年代の先輩が学校でクラブで直接生徒と接していただく機会を増やしていければと思います。

今後共、同窓会の皆様のご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

同窓会の皆様には日頃母校にご支援をいただき、又、後輩のご指導にお力添えをいただき誠にありがとうございます。

本校は、二〇〇一年の新世紀を迎え、教育改革、週五日制の実施、少子化による生徒数減少の中、校内の体制整備を教職員一丸となって進

退任の挨拶



前同窓会会長 中村 允 (中十三回)

平成十二年度卒業式を去る三月一日本校に於て行はれ、三四二名の新たな同窓生の誕生で、卒業生が約二六〇〇名となります。

私は平成八年度より同窓会長を命じられてから満五年になり、その間副会長の皆さんに助けられて今日迄参りました。

そもそも私の同窓会との関わりは、昭和五十七年の山崎会長(中三回生)の時で、当時はまだ、金井教諭(高三回生)が居られているいろいろ協議したことがあります。

昭和五十八年に銀友が現在の姿で第十二号として出版した当時は故奥山氏(中十四回生)が、原稿集めから、編集を一人で頑張つて居られ、封筒の宛名書きから封入、糊付を機械科の一室で手分けして作業したことを思い出します。それが現在は既に三十号を見るに至りましたことは

会員各位のご協力のたまものと感謝致して居ります。

同窓会も年々充実して参り平成十年に七〇周年記念の行事が催され、先代理事長の胸像の建立事業も会員各位の協力によって無事終了した事はご同慶の到りであります。

現在は母校八十周年を迎えるに当り、名簿の資料整備も着々と進んでいる模様で、係の方々のご苦勞も大辺なことで敬意を表す次第であります。

同窓会のインターネットも有志の方々によって製作されて居り、その成果が次第に現はれていると聞いて、嬉しく思います。

今後同窓会の益々の発展を希望するものであります。

たが、ご自分でつくられたガリ版ずりのプリント教材の内容がすっかりしたものであったことは、おなじ英語の教師をながくやってきた今のほくには充分にわかる。こうした本郷にとつて大切な先生が三人もそろつて本郷学園を去つていったということ、もつとはっきり言えば意に反してやめさせられたということは、創立以来使われてきた図書が捨てられてしまったのと同じことで、本郷が特色のある私立学校として持つていて当然の文化をみずから否定し、これを弊履のごとく捨て去つてしまったということにならないだろうか。

本郷は変わるうとしていた。それも、悪い方向に。それが、昭和二十九年に高校三年になつたほくの、実感だつた。生徒たちから尊敬され慕われるような学識豊かな先生が、つぎつぎに学園から姿をけしてしまい、「生活指導」という美名のもとに生徒を暴力的に服従させることだけしか考えないような、教員ともいえないような教師の数が、職員室にふえてくるようになって

つていったのだ。

ほくたちは朝礼のあとに戦時中の教練さながらの分列行進を強制され、列からはみでたものは体育の教師に遠慮会釈なく蹴飛ばされた。生徒の処分は日常普通のこととなり、時には規定を無視した重すぎる処分もあつて、このときには生徒集会をひらいて校長に取り消しをせまつたが、聞きいれられるはずもなかった。生徒を取締る責任者は社会科の教諭だったが、問題のある生徒をつかまえると便器の掃除をさせて得意になつていた。このような無法な処置が「教育的指導」としまかり通つていたのが、その頃の本郷学園だったのである。

生徒の間にも暴力団まがいの組織ができて、彼らに目をつけられた者は屋上に呼びだされ、殴られたり脅されたりしていることをきかされていたが、何とこの暴力組織の最高実力者が生徒会の委員長になり、「生活指導」を専門にする教員とグルになつて校内の秩序をたもとうとする暴力支配の構図ができあがつていったのだ

つた。その行きつく先は、他校生との縄張り争いによる乱闘で腹部を刺された本郷高校生の死亡を頂点とする、何回くりかえされたナイフによる刺傷事件だつた。当時流行のスピンドルナイフをもつことは、もちろん禁止されていたが、実際にはすこし目立ちたがる生徒ならばもつていても不思議ではなかつたのである。一部の生徒と生活指導の教員とでつくりあげていた校内を暴力で支配しようとする体制が、暴力による秩序の維持を容認していたからだ。

本郷は、もう「ほくの本郷」ではなくなるうとしていた。ほく自身は、なんとか本郷高校を中退してしまおうとしながら、それでもできずに三十年三月に本郷を卒業することになる。

筆者は東北大学教授を定年退官後、現在母校本郷学園にて理事としてまた講師として後輩の英語の教鞭を執られている。

(記・編集部)

ぼくの本郷、本郷のぼく

第三回

平田満男 高七回



先日本郷の図書室へいってみて驚いた。ぼくが中学から高校のころに使っていた古いおきな辞典や古典文学全集など、貴重な図書が見当たらないではないか。司書の先生に、「私は昭和二十四年から三十年までこの学校にいた卒業生ですが、私が読んだ本はどうなってしまったのでしょうか」とたずねてみた。

「図書室が移転するときに処分されました。古い図書をつかう生徒はいませんし、保管しておく場所もないのですから」
これは、とんでもない事なのだが、もちろん

その責任は司書の先生にあるわけのものではない。だが、ぼくの記憶によれば何冊もの稀覯本（きこうほん・ぼくは、この言葉を本中の図書室でおぼえた）をふくむ本郷中学らしい古い図書を「処分」してしまった当時の管理職あるいは古参の教員たちは、その責任をとわれなければならぬだろう。歴史のある教育機関が文献をあつめて保管しているのは、そのこと自体がその学校の文化のレベルをしめすからだ。やがて創立八十周年をむかえようという本郷が、ながく図書室におかれてきた文献を捨ててしまったというのは、学校には文化がなくてはならないという感覚を失っていたからだろう。こういうことがあつてみると、昭和二十九年のある日の朝礼の異様な光景を、ぼくは思い起こさずにはいられない。旧制の本郷中学創立い

らい三十年以上もの間、本郷にあって図画と用器画をおしえてこられた服部季彦先生が、生徒たちに自分は今日かぎりで辞職するとのつげ、当時の校長たちを批判する言葉を口にされたのだ。しらべてみると、おなじ昭和二十九年に歴史の浅田重教先生も英語の井上茂朗先生も本郷を去っていかれたことがわかる。

旧制中学の教員になるといふことは、たとえ私立であってもなかなか大変なことで、いまだきの中高の教員のように免許さえとれば誰でもなれるというようなお手軽なものではなかったという。ひとことではいへば、服部先生も浅田先生も井上先生も本中の先生であるというだけで、その学識と風貌によって尊敬されていい風格をもつておられた。たとえば井上先生の英語のおしえかたはまことに古色蒼然たるものだった

をしたが、「おお、本中の卒業生か、今日は何しに来たのか。」と尋ねられたので、事の次第を話したところ、早速、私を邪険に扱った下士官を呼び付け、すぐに輸送計画を作るよう命じられた。かの下士官も私が司令官と知己の間柄と知って、あわてて詳細な輸送計画を文書に取り纏めてくれた。

帰りぎわに司令官に丁寧な礼を述べると、机の引き出しから、煙草を一箱下さった。この煙草は、将校用のもので、なかなか手にはいらなかったもので、有り難く感謝して頂戴した。

また、司令官から戦況が大変厳しいので、武運を折ると言われた。そのあと、大急ぎで連隊に帰り、輸送計画を提出したが、事が速やかに進んだので、誉められた。

一週間後、準備の整ったわが連隊は、深夜、品川駅を客車・貨車に編成された列車で目的地に向かった。当時、米軍による空襲が連日連夜激しく、殊に鉄道沿線の都市は爆撃に曝されていたが、運良くわが連隊は無事目的地に到着し

輸送は完了した。昼間は敵機の攻撃を受けるので、夜間しか列車を走らせることしかできなかったが、私自身の計画以上に、輸送途中の手順がよく、これは須知司令官が事前に細かく手を打って呉れたものと、あとで思った。

われわれの配属将校であった須知中佐は、私の在学中に現役を退かれて、予備役となったがその後、戦争が激しくなったので、再応召を受け停車場司令官になっておられたのだと思われる。職業軍人とは思われないやさしい人柄で、少年であったわれわれ中学生に対し、あまり無理な軍事教練は押しつけなかった記憶がある。

この須知中佐の父上は、日露戦争の折、攻防の激しかった旅順に向けて、一個連隊を率いて輸送船〔常陸丸〕で航行中、朝鮮海峡でロシア軍艦に捕捉され砲撃を受けて、連隊長以下ほぼ全員が海の藻屑となった当時の悲壮な話として軍歌、物語、琵琶曲になった。年配の方はご存じのことと思う。

われわれの配属将校であった須知中佐は、そ

の父上である須知源次郎中佐の長男で、近衛砲兵中佐として本郷中学校に配属されていた。

私は一見習士官で連隊長ではなかったが、責任上、一個連隊をまとめて戦地に向かう折であり、ご自分の父上の無念を思い起こして、教子である若い見習士官が同じ運命にならぬよう輸送の万全を尽くしてくださったものと、今でも思い出して感謝している。

なお、この話を私の同期会である「やすなこの会（一五回）」でしたところ、同期生の宮森清久君が勤務していた労働省（現在の厚生労働省）で、須知中佐の子息と一緒に仕事をしていたと聞き、世の中は狭いものだと感じた。

また靖国神社境内の第一鳥居の右側に大きな「常陸丸殉難の碑」が建立されている。碑文は東郷平八郎海軍元帥によるものである。

須知中佐殿に再会



わが国の戦況が日々悪化している昭和二十年六月、私は前橋にあった陸軍予備士官学校を卒業して、東京で編成された新設連隊に配属された。配属早々与えられた仕事は、この連隊を至急、岡山県と鳥取県との県境にある軍の施設に移動させる部隊輸送であった。

当時の戦況は、問もなくソ連が日本に宣戦布告し、強烈なソ連軍が日本海から日本上陸してくると予想され、これを迎え撃つための陣地を至急構築し、日本軍を配置するため、鳥取県の米子市に近い大山（だいせん）の山麓で、わが連隊が作戦に入ることになったようだ。

そこで、一個連隊を輸送するため、品川駅にあった陸軍停車場司令部へ行き、車両の手配や輸送方法の相談をしようと出掛けた。停車場司令部には四、五名の将校・下士官がいたが、入

佐々木 象一 中十五回

口に近いところにいた下士官に事の次第を話したところ、こちらをチンピラ見習士官と見て取ったか、馬鹿にして話にも乗ってくれない。

困ったことになったと部屋の中を見渡すと、奥の机に司令官らしい将校が見えた。何気なくその人の顔を見てハット驚いた。

なんと、本郷中学校（旧制）時代の配属将校須知中佐殿ではないか。戦前の中学校以上の学校には、軍事教育が義務付けられていて、現役の将校が学校に配属されていた。

須知中佐とは、特に親しくしていた訳ではなかったが、中学校卒業以来久しぶりの再会であり、つい、うれしくなってツカツカと須知中佐のところへ行き、拳手の敬礼をして「須知中佐殿、本郷中学校卒業生の佐々木であります。」と大声を出した。須知中佐はきよんとした顔

設した漫画劇画部があると知らされていまして、当然の成りゆきで、すぐに当部に入部し、授業での実習と共に、心おきなく漫画を描く事に没頭する事が出来ました。当時、三年生になりますと、デザイン科の集大成としての卒業制作展がありまして、私は、十二分程のアニメーション(題名・「流れの果てに」太古から現代に至る文明の崩壊の様々を表現したもの)を制作いたしました。私の記憶では、合計で五千枚(セル画)からなる大変な労作で、初めての試みでもありました。さすがに最後の方は一人では到底出来上がらず、家族や友人にも作業を手伝ってもらい、幸運にも、その年の松平賞(最優秀者に贈られる賞)を受賞する事が出来、人一倍喜びを噛みしめさせていただきました。

◎卒業後の進路は？

その後、桑沢デザイン研究所(ビジュアルデザイン科)に入学し、そこを二年間で卒業するわけですが、この時期は好きな漫画の投稿が主でし

た。卒後、しばらくは、グラフィック関係の仕事に携さわっていましたが、ひよんな事から、まんが「宝島」に作品が掲載され、それからコンスタントに漫画の依頼があり、今日に至るわけです。特にロトの紋章では幸いにも、千二百六十万部全二十一巻の発行を記録することが出来、今日の私があるといえます。そういう意味では、購入された先輩、後輩諸子にはお礼の言葉もありません。紙面を借りてお礼申し上げます。

◎ペンネーム・藤原カムイの由来は？

中学時代の教科書に載っていたもので、カムイ(アイヌ語で、しゃげ、熊等、動物神の総称)の言葉の響きにずーっと心魅かれていたものから。

◎最近のお仕事について教えて下さい？

「気分はもう戦争」というタイトルで、戦争というテーマをキーワードに、現代社会に秘む社会状況を浮彫りにして表現したもので、じつ

くりと読み応えのある作品に仕上がったと思います。

◎本郷生後輩について一言お願いします。



漫画家を目指している人もいると聞いていますが、とにかく、粘り強く最後まであきらめずに努力する姿勢と、色々な物事に興味を持つ好奇心、そして、人と人との繋がりを大事にすることは特に大切です。最後に、月並みな言葉ではありますが、僕も頑張るから君も頑張れと言っておきます。丁度、高校受験を控えている同じ年代の息子が居るものですから……。これからも応援よろしくお願い致します。

◎本日は、お忙しい中ありがとうございました。

インタビュアー(写真撮影)

芦立敏朗・高二十三回



現在、ロトの紋章(全二十一巻既刊・エニックス社)等でお馴染みの漫画家、藤原カムイ氏の仕事場(沼袋)をお訪ねし、御本人から色々興味深いお話しを伺うことが出来ました。

◎漫画家になつたきっかけは？

昭和三十四年に下町である荒川区で生まれました。実家が和菓子屋を営んでおりましたものですから、朝から晩まで一日中、両親が働いておりましたので、幼い頃から自然と一人遊びがうまくなり、色々な紙に、たくさん絵を描く習慣が身につけていました。又、お隣りが貸本屋さんであった事もあり、よく遊びに行き、単行本を頂いたりもしてましたので人一倍、漫画に接していたといえます。そんな事から、当時、私自身は、鉄腕アトム(手塚治虫氏)の大ファンでした。又、周辺は下町の人情味漂う場所で、近所の友人達とも安心して夕方遅くまで、めんこや、鬼ごっこ等で遊んだものです。

小学校に上りますと、クラスの中には漫画を描

く子が数人おり、互いに刺激しながら、既にこの頃には、ペンを使用しながらの制作でした。そして、中学校に進学してからは、それまでの蓄積もありまして、自分で言うのも恥しいのですが、周りと比較しましても、かなりの腕前になっていました。その頃には、根が懲り性なものですから、本の装丁を考える事にまで興味が及び、一冊の本にまとめあげるまでになりました。この頃になりますと漠然とですが、将来は絵の道に進みたいと自然に考える様になりました。

◎高校(デザイン科)時代の思い出をお聞かせ下さい？

とにかく絵を描く事が好きでしたから、やはり、絵の描けそうな学校ということで、自然とデザイン科のある学校を志望したわけです。ここでは、中学時代に比べ絵に興味を持っているクラスメートが多勢いましたので大いに刺激を受けました。又、こち亀で有名な秋元治氏が創

日は、十月十五日に決まり、九時三十分に桜木町駅に集合する事になりました。オーブン二日目の横浜キャラクターミュージアムは、十時に開演。ちよつと早めの会場入り、北原氏を訪ねました。

約束が十時、我々だけで、少し早めの見学をさせてもらいました。館内最初に出迎えてくれたのが、昔懐かしい禁断の惑星（確か名前は、ロビ―でしたか）に出ていたロボットが出迎えてくれました。少し見学したところに北原氏が現れ、



館内を説明しながら案内して下さいました。

年代別におもちゃが展示しているコーナーや昔、駄菓子屋さんに売っていたおもちゃ、ちよつと古いヨーロツパのおもちゃ等が所狭しと展示してありました。

北原氏の説明も進むにつれ、だんだんと言葉が弾んでこられました。展示の最終コーナーには、貴重な古いポスター類が展示してありました。さて、横浜キャラクターミュージアムに興味ある方は、是非、自分の目で見て下さい。

対談

田中 北原さん、案内ありがとうございました。

高校時代のお話を少し、聞かせ下さい。

関塚 文化祭の時、沢辺先生に北原さんのスキーの話の話を少し聞きました。

志賀へスキー教室に行ったとき大げがをしたそうですね

北原 いや、私は、怪我だらけなんですよ。三

回ほど骨を折っています。

関塚 スキー教室で、いつの時ですか

北原 高校一年のスキー教室でした。

関塚 その当時からスキー教室がありました
け・・・

北原 ちよつと本郷で、最初のスキー教室じゃないんですか、また沢辺先生達がスキーを全然出来なかったのを記憶しています。
北原 私の実家がスポーツ店で、スキーやアイスホッケーの専門店ですね・・・

私は、スポーツの中で、スキーが得意でしたが、冬になるとよくスキー場に出かけました。すぐくうまいぞと言ったぐわいで、めちゃくちゃやりましたね・・・
田中 北原さんの中学生時代は、よく遊んだと言っておりましたが本郷生になる前は、あまり勉強をしなかった人が多かったんじゃないんですか。私も中学生まで、徳丸田んぼ（現在板橋区高島平）でよく遊びました。本郷生になってからよう

北原照久さんを訪問して

レポーター 田中良一 高二十四回



議室に出かけました。

講演が始まる前に北原氏（高十九回）にご挨拶し、今度、同窓会誌に何か掲載してくれませんかとお願したところ、十月十四日に横浜桜木町駅前にあるワシントンホテル内キャラクターミュージアムがオープンするので、見学に来て下さい。私が案内しますとおっしゃってくれました。そこで、対談する事になりました。

訪問するメンバーを決め再度、寺田副会長より北原氏に訪問日と時間の確認電話を入れました。

講演会の内容は、北原流「プラス発想」について持論を話されました。また、自分の誕生日が来たら両親に感謝し、プレゼントをもらうのではなく、花などをあげて感謝の意を告げるなど喜んでもらえれば、自分にツキが絶対めぐってくると言った等。北原流十箇条を話されました。

北原氏の十箇条の内容は、以下の通りです。

- 一． プラス発想
- 二． 勉強好き
- 三． 素直
- 四． 感動する
- 五． 感激する
- 六． 感謝する
- 七． 憑いている人
とつきあう
- 八． 親孝行をする
- 九． 人をほめる
- 十． 自分はいつも
憑いていると思う

桜木町の横浜キャラクターミュージアムへの訪問者は、岡本氏（高十回）、関塚氏（高二十回）、寺田氏と田中（高二十四回）の四名です。訪問



平成十二年九月三十一十月一日に文化祭が開催。文化祭特別講演として、父母会主催の「北原照久の元気が出る話」講演会がありました。中村会長（中十三回）、寺田副会長（高二十四回）と私（田中・高二十四回）が講演を聴きに文化祭を抜け、会場である巣鴨信用金庫会

たし、盛んじゃなかったですよ。当時サー

フィンはお客の入りは、夏はいいんだけど、冬にはぜんぜん来ませんよ。また、店の前にあるフェリス女学院の子達で、サーフィンをする子達がいまませんでしたね。

横浜山手には、女学校がたくさんあるけど、ほとんどサーフィンしませんよ・・

寺田 北原さんは、十四年前に横浜山手に来たんですか・・

北原 三月で雪が降りました。四月におもちゃの博物館をオープンする計画でしたからそれまで、あまり横浜に来たことなかったんですよ。

海が好きで葉山には、第三京浜で横浜を通り過ぎて、ご用邸がある一色海岸近くによく行っていました。海が大好きなんですよ・・
横浜の道路は、くねくねしてわかりにくいんです。慣れてしまえば、そうでもないけれどね・・

中華街に初めて来た人だったら外国に来

たような錯覚しますよ。

関塚 当時まだ、横浜にも路面電車が走って、車も混雑していましたね。

北原 車で行くとしても駐車場も少なくて行けませんでした。

私は今でこそ浜っ子の様な顔していますが、ずーと生まれも育ちも京橋ですから・・

寺田 高校の頃は、品行方正だったんですか
北原 品行方正ですよ。私は、喫茶店にも入ったことがあります。

友人が病気で亡くなった時、お通夜の帰りに先生と初めて喫茶店に入りました。いや品行方正と言うか、中学の時は、授業をさぼってばかりいましたが、本郷に入ってからがらっと生活が変わったから・・

関塚 町のお坊ちゃんになってしまったんですか・・
北原 まず、学校の授業をさぼらない、いや！さぼれない雰囲気は体育会系先生が担任でしたから

関塚 北原さんの年代は、スポーツで、優秀な

人が多くいましたね・・

慶応大で当時テニスで活躍した田辺さん。後にオーストラリアに留学して、プロテニスプレーヤーになったんですね。

北原 いましたね。それからラクビーでも全日本入りした栗原が同級です

関塚 栗原さんは、東洋大から近大に行って、全日本ラクビー入りしましたね。

今でも時々、本郷のラクビー部の後輩に指導していますよ・・

北原 高校の時は、勉強もスポーツも良くやりました。変な遊びは、しなかったですね・・
田中 本郷の帰りによく立ち寄った店はありませんか

北原 駒込にある一番と言うソバ屋は、友人とよく行きましたね。みんな二階で、「・・」を吸ってました。今だから言うてもいいでしょ。私は、吸わなかったんですよ。

私は、中学を退学になったその日に母か

やく勉強に取り組んだかな・

北原 私も勉強については、本郷生になってから努力しました。本郷の校風とゆうかが、自由な雰囲気の中いところを先生達が、よくほめてくれました。それがやる気を起こさせたと今でも思っています。そう言う事では、のびのびとした校風と
言うかね・

岡本さん（高十回）の時代は、まだ本郷も晩からだったでしょう・

岡本 そうだったかな・

北原 私が本郷に入った時は、まだ、番長がいました。本当の番長でした。

こてこての帽子をかぶってね。しかし、私の年代で、いなくなっただけですよ。

関塚 私が入った時は、いませんでした。

北原 私の入学する前までは、といましたよ。

田中 北原さんの在学中は、まだ応援団がありましたよ

関塚 私が野球部に入った一年生の時は、試合

の応援に来てましたね。その年の十二月に不祥事があり応援団は、閉部になってしまいました。

北原 私の生まれは、京橋なんです、三十七歳まで住んでいました。

その頃、本郷で応援団にいた同級生が、横浜山手のフェリス女学院の前で、古い洋館を借り、サーフィショップを経営していました。二階に住んで、一階で店を出してましたよ。そいつにあつた時、北原いぞと、朝は、フェリス女学院の子達の歌声で、目が覚めるんだから、それが横浜に来るきっかけになったかな・
私は、本郷といろんな事で、関係があるんです。そいつがいなかったら私は、横浜に来なかつたかもしれません。私が横浜におもちゃの博物館をオープンしようとして、別町に引越してました。横浜には、今みたくにサーフィンをする若者が多くなかつ





訪問者：左から寺田（高24）、岡本（高10）、北原（高19）、関塚（高20）、田中（高24）

北原 大学に入り、一年生の時、ヨーロッパに行ったんです。

下宿した家の人達が、家にある古い物を自慢するんですよ・

これは、曾じいさんの時代から使っているんだとか、いろんな物を大事に使ったり、それがしっそけんやくしゃなくて、豊かな生活の中でですよ・

古い物に囲まれて、生活するのもすごいなと思っただんです。それがおもちゃを集めるきっかけになったんです。このヨーロッパ経験がなければ、今のコレクターへの道はなかったでしょう。

関塚 いつ頃から集め始めたのですか

北原 二十歳頃、集め始めたので、三十二年間ですわね・

関塚 すごいね

田中 お客様も多くなってきました。話を中断してすみません・

そろそろ終わりにしましょう。

最後に記念の写真を撮らせて下さい。

北原照久氏の略歴

（著書・横浜ゴールドラッシュから）

一九四八年一月（昭和二十三年）京橋に生まれる
一九六七年二月（高校十九回）本郷高等学校卒業
その後、青山学院大学に入学

現在、株式会社トイズ代表

ティントイ（ブリキのおもちゃ）コレクションの第一人者として世界的に知られる。

横浜ブリキのおもちゃ博物館、機械じかけのおもちゃ館、箱根おもちゃ博物館、北原コレクションと平成十二年十月にオープンした横浜キヤラクターミュージアムがあり、ほかにもキヤラクターグッズの店を営営しています。また、開運なんでも鑑定団を始めとするTVに出演、全国規模で講演もこなして活躍しています。

からお前は、まだ、たばこを吸わないからいいところあるよとほめられたのがきつかけで、たばこは、何が何でも吸わないぞと決めたんです。五十歳になるまで吸いませんでした。父は、ピースをいつも持ち歩いていました。

中学時代は、学校に行かないは、補導されるは、ケガをするは、良いところが全然なかったのが、本郷に入ってから百八十八度変わってしまったんですからね・・私の人生は、波瀾万丈でね・・

「省略・・」

横浜を全然知らなくてね。私が行ったときは、サーフショップのあいつは、もういなかったし、千五百万円の借金を元手にボロボロの洋館を借り、私と妻と息子の三人でおもちゃの博物館を始めたんですよ。それが今マリインタワー、氷川丸、そしてワシントンホテルのここ四階フロアー全部そして、福岡、清水、池袋サンシャイ

ン等々とずいぶんふくれあがりました。

関塚 十四年間でですか

寺田 何年目から良くなったんですか

北原 はじめからロケットスタートでした。

関塚 テレビにでたのは、いつ頃からでしたか

北原 開運なんでも鑑定団がはじめてですから七年前ですか

関塚 それでは、初めて五年目で、変わったのですか

北原 十四年目ですから七年目からです。

最初の収入は、博物館の入場料とTシャツ販売でした。

妻がTシャツにワッペンを付けた手作りのものでした。

田中 それだけでは、収入があまりなかったんじゃないですか・・

北原 それでもお客さんがたくさん訪れてくれ、結構売れました。すごい事ですよ・・

関塚 たくさんのおもちゃのコレクションがあったから人を引きつけ、Tシャツも売れ

たんですね・・

北原 あとは、やる気と情熱を持ってがんばってくれた家族やスタッフ達のおかげです。

創業当時のスタッフも多くなります。全国のお店でがんばっています。

池袋サンシャイン店には、本郷のラクビー部出身の店長でがんばっています。彼は、おもちゃが好きで、沢辺先生を通して私に会いました。会ったら直ぐ気があって、本人は会社を辞めても私のところで働きたいと言ったんです・・

岡本 ラクビー部やサッカー部は、私の時にできましたね。

北原 高校時代ラクビー部で、ベンチプレスで百kg上げたやつは私ぐらいでした。

体重も五十kgしかありませんでした。

関塚 それはすごいよ

テレビで見てた感じでは、もう少しスラッとしているので、実際見て肩幅も広くガッチリしていますね・・

文化祭報告

(平成十二年九月三十日、十月一日)

文化祭実行委員長

篠 喜 三 郎 高六回

今年も学園の文化祭が催され生徒が中心となつて年一回、中一から高三までの六回生が、クラス単位に或いはクラブや同好会毎に種々諸々の趣向を凝らした出し物をして日頃の勉強から解放されたような学園全体が、賑やかで明るく、若さにあふれた二日間であつた、中でも中井歌秀(現役三年生)君を中心にした琴曲演奏会は、将来頼もしく感じられる後輩の成長ぶりを印象づけてくれた。

我々OBもOBブースを設けて、今年で三回目となるが、やつと様になってきたかなあ、と想える程になった。今回は高三、九組の教室があてがわれ現役の芦立先生(高二十三回生)に、メインの一人として活躍して貰つた。出展物は、

現役OBの作品(ガラス工芸品、写真:等)やOB秘蔵の学園関係資料等、特に今年は、パソコンによるアルバムと呼び出しソフトを平野氏(高二十六回生)の協力で実現した、手始めに中十七回生のアルバムを記憶させ、何時でも当人のクラスや当時の先生方がパソコン画面に映し出されると言うもので、行く行くは卒業生全員を網羅して行こうと、いき込んでいるところです。前述の中十七回生の何人かの方々も、これを見て大層懐かしんで居られました。ブースの中央半分には来客用のテーブルセットを設け、お茶とコーヒーで歓談して頂き大変好評でした。

又、今回の展示品の中で昨年の「高松ツアー」を大きく取り上げ大小の写真と説明文で学園創設者の原風景が、一般の人でも解るように衝立にて展示された。

この他に学園が用意した講演には、北原照久氏(玩具鑑定士、12チャンネルで有名 高十九回生)の現況と一生を左右する本郷での想いで

話しもあつて大変有意義なお祭りとなつた。今年も会員皆様のご協力とご参加により、さらに充実した展示をしたいと思ひ込んでいますのでOB各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成十二年度 定期総会報告

平成十二年六月二十四日午後三時より
於 本郷学園会議室

平成十二年度の同窓会定期総会が、六月二十四日午後三時から本郷学園会議室に於いて開催された。司会の丹波副会長（高十八回）より開会が宣言される。続いて松平理事長の挨拶があり、平成十四年度から始まる学校五日制に伴う本郷学園の方針に関して説明された。

式次第にのっとり中村会長（中十三回）の挨拶があり、次に全員起立の上で物故者に対して黙祷が捧げられた。

総会の議事に入る前に議長選出が行われ、多数の拍手によって中村会長が議長に選出された。続いて司会より書記の指名となり、野口理

事（高二十四回）と下関理事（高五十回）が選出された。

これより議題に進み、まず平成十一年度事業報告が秋元副会長（高七回）より説明され、賛成多数で了承された。次に平成十一年度会計報告が関塚副会長（高二十回）より説明され、続いて会計検査報告が見並監事（中十二回）より行われ、承認された。

引き続き平成十一年度事業報告が各担務理事より報告された。

田中副会長（高二十四回）より銀友二十九号の内容についての説明があり、またホームページに関してプロバイダの変更、ドメインの変更についての説明があった。次にホームページについてパソコンの購入、議事録等の掲載について説明された。

篠副会長（高六回）より名簿の作成状況について、学校の卒業名簿との照合を行っている旨が説明された。

続いて、平成十二年度事業計画案が秋元副会

長より説明され、次に平成十二年度会計予算案が関塚副会長より説明された。

寺田副会長より銀友三十号の予定・内容に関する説明、原稿の依頼があった。

篠副会長より名簿についての説明があり、名簿を本郷学園創立八十周年（平成十五年）に発行したい旨が報告された。

最後に、シドニーオリンピックへの出場が決定した北島君に対し餞別金を贈る旨の報告、スポーツ振興基金を一般会計に繰り入れする旨の説明があり、承認された。北島君（高校三年）は本校の現役では初のオリンピック選手となり、水泳の百m・二百m平泳ぎに出場することが決定した。

以上ですべての議事が滞り無く行われ、閉会の辞をもって総会は終了した。

午後五時より、「みやこ」にて懇親会が行われ、多くの方の参加により賑やかで楽しい会となった。

（編集委員）

院大(十四)、立教大(二十三)、中央大(三十七)、法政大(三十六)、学習院大(二十九)、延べ百九十二校と昨年度より一割弱の増加である。早慶上智理科大、MARCHE+Gの延べ合格校数の一割程度の増加は、いずれも現役生の合格校数の増加による。

■指定校推薦制大学は、青山学院(理工) 学習院(文・法・理) 慶応義塾(理工) 上智(経済・理工) 昭和(歯) 中央(商・法) 東京薬科(薬) 東京理科(経営・理・理工) 明治(理工) 明治薬科(薬) 早稲田(商・第一文・理工)・その他 合計四十四校

■国立大学合格者四十七名

東北大・九州大・一橋大・筑波大・千葉大・東京農工大・東京藝術大・横浜国立大・東京都立大・東京都立科学技術大・防衛大学校・防衛医科大学校 その他

■私立大学合格者七三三名

青山学院大・学習院大・関西学院大・北里大・慶応義塾大・国際基督教大・上智大・中央大・

東京歯科大・東京農業大・東京薬科大・東京理科大・東邦大・日本医科大・日本獣医畜産大・法政大・日本薬科大・明治大・明治薬科大・立教大・立命館大・早稲田大 その他
なお合格者が重複しているが、その他多数となっている。

■平成十二年度学園祭

文化祭は九月三十日(土)十月一日(日)、体育祭は中学・高校共に十月八日(日)に開かれた。テーマは「ファイナルインパクト」という生徒からの公募によるキャッチフレーズで、高校テニス部招待試合、バレー部、中学卓球部、バレー部、剣道部、サッカー部招待試合等、本校の生徒が多数応援し文化祭の雰囲気大いに盛り上げました。又、本館を中心に様々な参加団体の催物を見られた御父兄の方々の笑顔が印象的でした。今回で五回目になる入試相談コーナーや、三回目となる同窓会コーナーもお茶のサービス等もあり、昔を懐かしむ同窓生の姿も

見られ、仲々好評のようでした。

■スポーツ関係

高校

剣道部：関東大会都予選団体3位・個人5位、関東大会出場、インタールハイ都予選団体ベスト八

秋季大会・新人戦大会団体ベスト十六、竜

旗大会五人抜き一回

柔道部：関東大会支部ベスト六位入賞・都大会出場

十二年1日支部ベスト四位入賞・都大会出場

学年別新人大会六位取賞

※新人大会個人龍無段の部ベスト八、早稲

田・越智60kg級ベスト八、北村66kg級ベ

スト八、小室100kg超級準優勝

選者権支部3位・都大会出場

※個人無差別級早稲田ベスト十六

水泳部：東京都高校春季大会総合第2位、二年・條裕

介100mバタフライ優勝、二年菅原怜1

00m平泳ぎ優勝、二年竹内寿史200m

個人メドレー優勝

個人メドレー優勝

学園だより

■北島、大前君を祝う会

高校三年の北島康介君がシドニー五輪の百米平泳で、見事に世界第四位に入賞。さらに同三年の大前祐介君がチリのサンチャゴで開催された世界ジュニアオリンピック陸上選手権で見事に四百米リレーで銅メダル、二百米で五位入賞と日本初の快挙。この祝勝会が十月二十七日五十年館ホールで行われた。

校長ほか学校関係者、同窓会役員、水泳関係者、北島君はお母さんと一緒に、大前君は銅メダルを胸に参加。校長の喜びの挨拶、北島、大前君が応援のお礼、アテネへの抱負を述べ、一同がジュースで乾杯した。



■本郷学園の教育

来年度より本郷学園の制度が変わります。平成十四年四月、中学一年生から新教育課程が実施されます。これがそのまま実施されれば、日本の教育水準は低下をまねきかねないとの指摘があります。これをあえてやるのには、週五日制の問題と学校崩壊の問題があると思われます。五日制の実施は先進資本主義国の趨勢で、そのためには三十%の授業内容の削減は致し方ないし、また、学校の荒れの原因は、授業がわからない生徒が多く、わかり易くするためには内容を削減するしかないということなのでしょう。本校のこれへの対策は二つあります。

一つは、来年度より中学・高校ともに週五日制となります。但し、授業内容の削減はしない。そのため、週二日ほど七時間授業があります。また、土曜日は時間割では授業はありませんが、進学講習・成績不振者の指名補習・クラブ活動などを行います。さらに、月一回ほどは講演会・情操教育・校外授業などの学校行事を土曜

日にいれることで、年間授業数は変わらないものにしていきます。土曜日はただ休みにするのではなく、生徒を伸ばすために活用するのです。

次に、来年度の高校理数科の募集を停止して普通科のみとする。中学の募集枠を三十名増の二百四十名とし、五クラス体制から六クラス体制にかえ、ゆくゆくは中高一貫校として高校募集を削減していきます。現在、中高一貫校としての教育内容をより充実させるよう検討中です。

■平成十三年度入試結果

国公立大学は東北大(四)、九州大(二)、一橋大(二)、筑波大(二)、千葉大(五)、など延べ四十七校であり、昨年並みの結果である。私立大学に関しては、全体で延べ七百三十三校であり、早慶上智理科大については早稲田大(三十七)、慶応義塾大(十四)、上智大(十三)、東京理科大(六十三)、延べ百二十七校と昨年度より一割の増加である。いわゆるMARC H+Gについては、明治大(五十二)、青山学

同期の輪

* 巣鴨百選（2001・2月）特集本郷学園記事より



イチヨウの根元にある
「第17回卒業記念」の碑

「御前様」と呼んでいたことも——今は昔の物語です。」
戦前、我々の時代は、高松藩の子弟が先生であり、初代松平校長のことを

「御前様」と呼んでいたことも——今は昔の物語です。」

松平現校長先生よりお話を伺って、隣りの三菱養和会のバルテールで立食パーティーを、という趣向です。

数年ぶりです。

今回百二十名に案内状を発送しましたが四十名位出席します。遠くは宮城県からも。我々はもう七十五歳です、やはり懐かしいので母校を見学し、



松平現校長先生よりお話を伺って、隣りの三菱養和会のバルテールで立食パーティーを、という趣向です。

二十数年ぶりに17回生同期会
——村松達夫さん語る——

「昭和十四年四月入学し、十九年三月卒業した本郷中十七回生の同期会を一月二十七日に開きます。二十

第一回 染桜会 参加者記念撮影（平成13年1月27日、雪の日）
本郷中学校（旧制）第17回（昭和19年卒業）生、同期会。於本郷学園会議室



東京都高校選手権大会総合三位、二年一條裕介100・200mバタフライ優勝

関東高校大会総合二位、二年竹内寿史100・200m背泳ぎ優勝、400mメドレー1レー優勝

日本高校選手権総合七位

東京都高校新人大会総合二位、200mメドレー1レー優勝

陸上部

都高校総体・総合三位

全国高校総体・総合六位

・100・200m四位

・4×100mリレー三位

世界ジュニア選手権(チリ・サンティアゴ)

・200m大前裕介 5位21秒05

準決勝20秒81

(都高校新・日本高校歴代二位)

ラグビー部

春季大会ベスト八

サッカー部

関東大会都予選

全国高校選手権大会都予選

本郷高0-1修徳高

ボート部

インターハイ出場(舵手付フォア) 準決勝

全国選抜大会(舵手付フォア) 関東予選優勝

バトミントン部

都新人大会団体戦 回戦進出

都Aブロック選手権大会個人戦

男子単ベスト八樋口諒

中学

剣道部

春季ブロック大会団体二位、豊島区夏季大会

団体優勝・個人一位、夏季ブロック大会

団体ベスト八、東京都夏季大会団体ベスト一

六、巣鴨学園少年剣道大会団体一位、秋季ブロック大会団体一位

サッカー部

東京都春季大会・豊島区大会優勝

バトミントン部

豊島区春季大会団体戦三位、個人戦男子単一位小山智之、Dブロック春季大会

個人戦男子単一位小山智之(都大会出場ベスト十六)、豊島区秋季大会団体戦二位、個人

戦男子複優勝宅・佐藤、Bブロック秋季新

人大会団体戦ベスト八、個人戦男子複三位

宅・佐藤(都大会出場)

陸上部

全日本中学通信競技大会 一年走幅跳六位

七位、共通走幅跳四位、共通砲丸投八位、共通三種競技B六位

第三十九回東京都中学総合大会 一年走幅跳

八位、低学年4×100mリレー五位

第四十三回東京私立中学対抗選手権大会

一年100m三位、二年100m六位、共通2

00m七位、共通800m四位・五位、一年

1500m二位、二年1500m四位・六位、

共通走幅跳六位、共通砲丸投一位・三位・六

位、低学年400mリレー四位、共通80

0mリレー六位

学校対抗一位

高校六回生同期会

昭和二十九年三月卒

恒例の同期会（昭和二十九年卒）が、今年も風薫る五月十三日（土）、多数の仲間を迎えて、浅草は駒形橋のたもと「むぎとろ」にて賑やかに催しされ、なつかしく楽しい一時を過ごさせてもらった。今回は遠く小諸市から在郷医師の立木桂三君、近くでは初参加の西麻布の津久田愛之助君と神田神保町の奥村茂君が加わり、更に前同窓会会長中村充先輩、恩師林英夫先生のご出席もあって盛大な同期会となった。メは丸橋修君の音頭で散会した。こゝで「むぎとろ」のあるじ中島洋吉社長と松坂忠明幹事のご尽力に改めて深謝致します。

合掌

篠 喜三郎 記



高校十回生同期会

昭和三十三年三月卒

平成十二年十二月十九日、全日空ホテルにて同期会を催しました。年末の繁忙と住所がわからず通知を出せないやらで思うように人数が集まらず、多少の淋しさがありませんでしたが、四十余年ぶりの再会であり、参集した人たちにとっては懐かしさがつり、変貌した容姿の上に本郷時代のニキビ面を重ねたものです。

短い時間でもあり話が尽きず、次回は一泊旅行で歓談の時間をゆつくり取るようにと誰言うこともなく持ちあがり、本年九月に川治温泉に二回目の同期会を企画致しました。

詳細は発起人 山崎登氏まで

電話 ○二九七―七二―九八八一

文責 岡本 信也



【お願い】

同期の輪の投稿（できるだけ写真をつけて）をお待ちしております。

旧制十八回生同期会

(第二十九回十八会)

昭和二十年三月卒

平成十二年十一月十日(土)に、神田の教育会館の喜山倶楽部で開催した。集う人四十五名。盛会でした。

総会と恒例の期友の講演を「椿の間」単なる総会だけでなく各方面で活躍した方の話は、有意義な事と自画自賛しております。

記念撮影の後、席を「葵の間」で懇親会。会食をしつつ自由に歓談。いくなれば至福の時を満喫した。

年が明ければ二十一世紀。来年度の会を健康で集まれることを胸に散会した。

前田 和男 記



高校三回生染井会同期会

昭和二十六年三月卒

二十一世紀初の同期会は、去る四月七日(土)に巢鴨地藏尊隣接の大橋屋そば店で開催致しました。

目の前に高齢社会の門戸が開いていることを他人ごとのように、参加者全員が五十年前の本郷時代にタイムスリップし、飲み、食べ、語る楽しい会となりました。とくに同窓会役員の望月敏郎・地曳秀雄氏から母校の現況報告を伺い、素晴らしい学校評価の進展に意を強くし、益々の期待を大きくした次第です。

尚次年度の当番幹事は、A組の山岸正治、山口洋司氏が担当することになりました。多数の参加を希望します。

中島 正次郎 記



平成13年度事業計画

自・平成13年4月1日 至・平成14年3月31日

(平成十三年)
 四月六日
 四月十四日
 五月中旬
 五月十九日
 六月十六日
 七月二十一日
 八月二十五日
 九月二十二日
 二十三日
 十月二十日
 十一月初旬
 十一月十七日
 十二月十五日
 (平成十四年)
 一月十九日
 二月十六日
 三月一日
 三月十六日

本郷高等学校入学式(会長・副会長出席)
 理事会・懇親会(三菱養和会)
 銀友三十号発行
 運営委員会
 定期総会・懇親会(本校会議室)
 運営委員会
 理事会・懇親会
 学園祭・文化祭(同窓会ブース出展)
 運営委員会
 第二回親睦旅行(水戸市)
 運営委員会
 運営委員会・忘年会
 理事会・新年会
 運営委員会
 高等学校卒業式
 運営委員会

平成13年度一般会計案

自・平成13年4月1日 至・平成14年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,499,086	卒業生記念品費	200,000
会費	3,000,000	文化祭出展費	50,000
入金(平成13年度382名)	1,146,000	印刷費(一般)	20,000
預金利息	1,000	印刷費(銀友)	1,150,000
		発送費(銀友)	1,000,000
		発送手数料(銀友)	110,000
		通信費(HP料含む)	100,000
		名簿管理保守費	250,000
		事務消耗品費	30,000
		会費郵便振替手数料	105,000
		予備費	200,000
		次年度繰越金	2,431,086
合計	5,646,086	合計	5,646,086

名簿編集積立金(支出明細)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	3,000,000	名簿データ入力	589,835
		校正料	440,000
		コピー代	23,000
		アルバイト料	10,000
		次年度繰越金	1,937,165
合計	3,000,000	合計	3,000,000

保有形態 東京三菱銀行駒込支店 1,937,165

平成12年度事業報告

自・平成12年4月1日 至・平成13年3月31日

(平成十二年)
 四月五日
 四月二十二日
 五月中旬
 五月二十七日
 六月二十四日
 七月八日
 七月二十二日
 八月二十六日
 九月二十三日
 九月三十日
 十月一日
 十月二十七日
 十月二十八日
 十一月十番
 十一月二十三日
 (平成十三年)
 一月二十七日
 二月二十七日
 三月一日
 三月二十七日

本郷高等学校入学式(会長・副会長出席)
 理事会・懇親会(三菱養和会)
 銀友二十九号発送
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 定期総会・懇親会(本校会議室)
 北島君オリンピック出場激励と饗別(本校理事室)
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 理事会・懇親会(三菱養和会)
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 学園祭・文化祭(同窓会ブース出展)
 北島君・大前君祝賀会(会長副会長出席)
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 理事会・新年会(大雪の為新年会中止)
 会長・副会長会議(同窓会資料室)
 高等学校卒業式(会長・副会長出席)
 会長・副会長会議(本校校長室)

平成12年度一般会計報告書

自・平成12年4月1日 至・平成13年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,211,502	卒業生記念品費	147,370
会費	2,766,000	北島君饗別金	100,000
入会金(平成12年度)341名	1,023,000	文化祭出展費	66,732
スポーツ振興基金	63,896	印刷費(一般)	20,000
受取利息	1,898	印刷費(銀友)	1,161,930
		発送費(銀友)	988,146
		発送手数料(銀友)	109,882
		通信費(HP料含む)	110,800
		名簿データコンパート費	420,000
		名簿管理保守費	227,567
		事務消耗品費	23,756
		什器備品費	91,450
		会費郵便振替手数料	82,675
		雑費	16,902
		次年度繰越金	1,499,086
合計	5,066,296	合計	5,066,296

保有形態 郵便貯金 1,499,086

本郷学園同窓会 会長 中村 允
 本郷学園同窓会 会計 関塚 正治
 本郷学園同窓会 監事 見並 力
 本郷学園同窓会 監事 松坂 忠明

第十一条 総会は本会の最高議決機関とする。

定期総会は毎年一回原則として母校で行い、会務報告、役員承認、会則改正その他本会に関する重要事項を議決し且親睦会を兼ねるものとする。

会長は理事会の議決により臨時に総会を召集することができる。

《理事会》

第十二条 理事会は理事を以て構成し理事の過半数の請求、もしくは会長の要請により開催し本会に関する一般事項を審議する。

《会長副会長会議》

第十三条 会長副会長会議は、副会長及び本会の事業を担務する理事で構成し、会長の召集によって開催、本会の運営にあたる。

第五章 事業及び議決

《事業の遂行》

第十四条 理事は担務を定めて会誌の発刊、企画、会計、庶務その他の事業を遂行する。

第十五条 理事会において立案された本会の事業は総会の議決を経るものとする。但し、急を要する場合は理事会において処理するものとし、次回の総会において承認を得る

ものとする。

《議決》

第十六条 会員は総会において一様に発言権・議決権を有し、総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長が決める。

第六章 会計

《事業年度》

第十七条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌三月三十一日に終わる。

《会計》

第十八条 本会の経費及び事業資金は入会金及び普通会員の年会費並びに寄付金その他を以てこれに充当する。

一旦納入した金品は一切返還しない。

第十九条 本会の収支決算は毎年総会に於いてこれを報告、承認を得るものとする。

第二十条 会員は年会費を一口金式千円として一口以上を毎年納付するものとする。

卒業時の入会金は参十円とする。

第七章

第二十一条 本会則は総会において出席会員の

三分の二以上の賛成がなければこれを改正することを得ず。

付則

本会則は平成十一年六月二十六日より施行する。以上

会則の一部改正案

第十条第一項の「会長・副会長会議」を「運営委員会」に改める。

第十三条第一項の「会長・副会長会議」を「運営委員会」に改める。

第十三条第二項として次の条文を設ける。
運営委員会に副会長中より会長の委嘱によって事務局長一名をおく。

本郷同窓会会則

第一章 名称及び位置

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会と称す。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号本郷学園内に置く。

第二章 目的

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を厚くし母校の発展を図るを以て目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

会員の親睦会の開催、会誌の発刊、母校後援事業、名簿の調整と発刊、ホームページの運営、慶弔等。

第三章 組織・役員

《会員》

第五条 本会は次の会員を以て組織する。

会員は、母校卒業者及び卒業生待遇者並びに中途退学者で会員の紹介により理事会の承認を得た者とする。

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

名誉会長 一名、顧問 若干名、相談役 若干名、

会長 一名、副会長 若干名、

理事（各回期一乃至三名） 監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

名誉会長は本郷学園理事長を推薦する。

顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに会長経験者を推薦する。

相談役は副会長・理事・監事の経験者で会長の委嘱により推薦する。

会長は理事会において理事の互選により選出する。

副会長は理事中より会長の委嘱によって定める。

理事は、各回期毎に選出し総会の承認を得るものとする。但し選出のない回期からの

理事は一名を会長が指名委嘱し総会の承認を得るものとする。

を得るものとする。

監事は、会員中より選出する。

会長・理事・監事は選出後の最初の総会の承認を得るものとする。

《役員職務》

第八条 役員は次の職務を行う。

会長は会を代表して会務を総括執行する。

副会長は会長を補佐し会長事故あるときは副会長間において定める順位により会長事務を代行する。

理事は、理事会に出席して、本会の運営に参画する。

監事は会計を監査する。

顧問・相談役は会長の要請ある時は随時出席して意見を述べる。

《役員任期》

第九条 役員任期は三年とする。

第四章 会議

《会議》

第十条 本会の行う会議は、総会、理事会、会長副会長会議とする。

長副会長会議とする。

会議の議長は、会長が指名する。

《総会》

■中十六回 荒 四朗 伊藤篤行 大津泰三 加瀬量次

菊池 宏 木村富造 木村康夫 小永井蓮 白井 明

高橋璋守 高野 透 田中光男 田中凡夫 近澤勝利

野尻利祐 原 栄蔵 樋代幸雄 古内正禧 増山善明

増田富一 森 恭久 和田節

■中十七回 阿出川昭治 按田仁三郎 秋田禮一

井桁八三郎 乙部邦壽 小川清 大村雅通 大野 肇

加賀野井清作 垣喜一郎 亀岡 周 佐藤元徳 宮田貞一

齋藤敏夫 下村多気夫 島田 威 鈴木 隆 高野正美

田中章治 田中裕一 千葉孝男 土屋二郎 寺口有喜公

野瀬田日出生 星野 実 前田昌弘 水田裕昭

町田 滋 村松達夫 藤 清平

■中十八回 大沢欽一 愛 利三 安達正治 新井義雄

青戸 将 青木益嘉 伊藤晃二 井樽 孝 磯川清和

磯野泰夫 岩崎 昭 五十嵐宏 今里 隆 石田順嗣

植田 茂 櫻本蟻次 岡田光正 大原 功 大西 宏

尾田 晋 加藤浩正 加藤宣夫 蒲生勇三 金子佐多美

菊池 夫 北村廣三郎 北堀幸雄 木村和国 久保田稔

栗山春雄 駒井嘉直 後藤良一 小山 寿 佐々木一昭

志田芳久 清水正美 菅野英夫 菅野武司 鈴木 充

鈴木卓三 瀬川昌男 妹尾 尚 玉置 孝 高橋一夫

田中健一 田中利雄 千葉兼太郎 土屋恭一 烏飼義二

藤堂正彰 富山 栄 富田和雄 豊崎益夫 友安昭治

中山 正 仲摩邦夫 長谷柳三 野本 昭 長谷川忠也

馬場 隆 服部定善 楢垣順次 細井 孝 菩提寺悦郎

間野芳夫 松永昭二 松廣 翠 松田 裕 松本純治

前田和男 宮田昭平 水原奎一 村野桂三 森 正徳

森本 肇 山田卓治 山本 昇 渡辺豊一 渡辺信夫

■中十九回 新井忠彦 石井博夫 岡田貞一 乙坂 保

大野勝弘 貝塚明雄 亀山謙治 菊田 勇 佐藤輝義

重永政夫 鈴木司郎 外川一雄 玉川 昭 高橋 實

高橋昭弥 竹本三男 西村 努 西島正康 保谷六郎

増田速水 室久敏三郎 山本 巖 篠 尚

■中二十回 市川恒雄 大屋 忠 大塚康夫 倉田桂二郎

田村能保留 田島利男 鶴岡俊雄 土肥 隆 中島敬太郎

橋本公成 久永幸隆 藤林 晃 皆川敬次 山下保次

山中伸介 山田英爾 吉田秀世 新井敏夫 市川 保

菊入喜三郎

■中二十一回 阿知波健 市橋光雄 池田昌弘 板倉 厚

大下 晃 古門敏郎 新澤良孝 鳥崎哲雄 田村義雄

田中一好 中田幸吉 中林商蔵 西口雄久 二宮重恒

古澤秀信 藤村省三 星野昌弘 持田耕一 横澤邦彦

■中二十二回 有田利光 井筒千秋 稲田 稔 田中昭二

伊藤文二 加藤 昇 川口 孝 越田和夫 小西茂夫

坂本庄司 佐藤 明 須田光夫 高田政雄 田島達策

鳥居 馨 中原豪彦 野々村長三 広瀬六郎 福沢 昇

松葉義人 江森俊男

■高一回 相川 厚 佐治栄一 堀井幸次郎

■高二回 岡村孝彦 小野寺啓亘 金森健人 行田栄一

木村敏夫 小倉雅文 佐野重一 櫻井真平 櫻井 泰

篠 弘正 清水真太郎 鳥橋明二 杉浦弘二 豊嶋敬司

中田英男 西島成一 羽生 佑 原田鈴二 浜野清隆

宮入貞雄 三宅昭男 森田富弥雄 吉川 隆

■高三回 篤 碩男 石川達夫 植松隆吉 奥平博一

大槻一雄 北見 尹 志野原三津夫 合田 平 小平光郎

佐々木三郎 佐々木忠次 佐藤 正 坂田 実 地曳秀雄

中島正次郎 平子浅雄 前田善男 光安伸夫 望月敏郎

山岸正治 山口洋司 山内英夫 吉田孝光

■高四回 鈴木 宏 鈴木富治 西江峰夫 向井利男

八嶋政臣 渡辺武男 佐々木直剛 廣瀬澄 板倉雅宣

■高五回 井沢 清 市村 近 梶野伸二 片桐幸一郎

鳥崎雄司 染谷 登 谷川洋明 横田文一郎

■高六回 赤羽根弘 伊藤洋之助 内野宏三 奥村 茂

小形祐一 小椋 一 勝野恵之 川窪国明 柏村喜徳郎

栗原廣太郎 後藤順夫 小林金則 小林秀行 佐々木啓之

佐瀬友貞 篠喜三郎 霜越 信 鈴木惣一郎 高木桂三

本郷学園同窓会会費納入者一覽

平成十三年三月三十一日現在

■中一回 野尻 清 野本 泰 藤田俊男

■中二回 川辺武彦 栗 山 纒 田代康虎 水野重真

■中三回 泉津井玄 久保元吉 高松龍吉 野本三千雄

本郷次郎 吉村貞夫

■中四回 伊藤英治 池谷欽一 宇田川義雄 大沢光郎

亀甲 勲 小島善一 齋藤薩郎 杉本金馬 滝口頌賢

中西外茂雄 森村 亨 吉田憲二

■中五回 井上久男 大田明彦 香川憲一 小山敏夫

小林 裕 高須 勉 田中宗一 徳田雅彦 服部嘉丸

広瀬武次 山内 修 山田一郎

■中六回 伊神大四郎 大和禎人 河村利雄 小出一夫

佐原雄次郎 田辺教夫 橋本七郎 秀島辰弥 堀江勇治

山本秀明 四谷輝久

■中七回 秋元庄司 大原泰治 東風谷秀雄 寺井 實

山口 毅

■中八回 浅井美雄 石坂岩雄 勝山恒久 川崎昌夫

猿橋 昇 鈴木雅一郎 鈴木貞夫 瀬戸正弘 園部三郎

谷崎丈夫 竹田 亨 長嶺金次郎 山中隆一 湯原 豁

鶴森輝邦

■中九回 合場信次 網谷英二 有賀活郎 有村純臣

伊藤 巖 鶴木 諱 小沢秀義 大塚秀太郎 五味重春

佐々木岸太郎 齋藤富一 徳田喜一郎 長島照雄

早速爾郎 吉原晴夫 吉成久志

■中十回 青井水月 伊藤龍昭 井口信雄 飯田博通

大多和利治 大沢 清 大塚信男 久住進一 後藤恒久

小泉 進 佐藤 崇 齋藤 清 鈴木勝美 永井吉男

中川統一 内藤和彦 毛利正利

■中十一回 青野 廉 市川雄一 小川邦夫 太田芳蔵

尾川勝助 角田栄三 鎌田勝雄 黒川興文 近藤要

公平 武 小林義雄 斎木茂一 関口二郎 高橋耕一

永田忠哉 中野武正 長妻義雄 山崎治憲 八杉 繁

保持明

■中十二回 新井 洗 今井田貞 石原豊英 小沼四郎

加賀幸雄 橋本善一郎 剣持行雄 後藤嘉徳 小島義之

坂口 甫 白井純文 富田六之助 堀 一郎 松岡和光

前田晴久 見並 力 山田英彌 吉田正吾 高貴繕晴

■中十三回 阿部敏一郎 井上明照 今井幸太 石原清助

梅田眞男 太田恭二 川村良夫 菊田満保 久保秀郎

黒鳥四朗 小森為郎 鈴木和男 橘 正道 高橋 正

高田甚蔵 寺門 務 永田三郎 中村 允 花里八郎

平本義雄 山口一弘 山口 明 山本昌雄

■中十四回 岩村龍明 石川芳正 尾本 弘 尾立維久

村田利博 工藤一葦 佐藤三良 鈴木一郎 高野 睦

多賀一郎 田中光晴 田幡 徹 西村 博 長谷川親弘

藤井繁太 藤井 稔 本田磐雄 宮崎卓郎 宮崎和哉

南 敬 森本三郎

■中十五回 阿部敏秋 新井文一 青柳 纒 入江幸夫

奥平保正 荻原久雄 大田年三 大久保雄二郎

金井 格 菊田 治 栗原重雄 工藤幸男 近藤 纒

坂合邦夫 佐々木象一 杉田義久 鈴木利一

高沢 俊 土屋健人 飛田庄衛門 中山甲一 中村美登

根本卓光 野村秀二 萩原友郎 畑 定 松本八郎

宮森清久 宮本幸雄 吉松茂弥 吉田幸之輔 渡邊好夫

渡辺大乗 脇坂勝明 松田光博 根本卓光

■高三十五回 藤本由紀夫 鈴木徹 諸石貞生 丸橋英正

茂呂孝元 本莊恭一 矢嶋孝太郎 小泉孝司 増岡武宏

■高三十六回 齋藤宗男 川端下徳之 小林善人 佐々木

慶和田辺賢一 松本圭一 岩澤基之

■高三十七回 高林 智 土田賢一 友成公泰 小林順一

安川清康 横川高樹 城 和夫 矢島俊之 矢野克行

藤平克彦

■高三十八回 伊藤修次郎 玉置秀行 大塚 潤 中山久嗣

吉本光博 高橋 慎 佐藤秀行 大野秀樹 奥村直和

工藤 琢 櫻井 修 高堀 健

■高三十九回 原口 智 岡田康司 佐藤和明 大塚 勉

橋本徹真 宮崎陸台 堀清信幸 金子純一郎 寺山義泰

戸丸将志 村井次郎 平出 悟 保谷岳太郎 小宮基典

篠原史孝 田口裕志

■高四十回 米村英治 丸橋俊正 原 次郎 日枝広道

重川孝志 小林善幸 高橋拓朗 長谷川裕 福田亮一

田畑 準

■高四十一回 河越太郎 小掛慎太郎 小林孝安

小松直人 佐藤慎也 関口隆之 岡田 博 渡邊雄一郎

頭井晃一 富沢信夫 紙谷淳一 井原宣孝 秦 正信

小林賢行 長谷隆仁 栗山昭一 町田貴之

■高四十二回 花田憲彦 本井利生 高峰伸宣 三村淳悟

野口 毅 井田隆之 山本篤広 菊地敦司 上西晃夫

吉川秀一 島村英孝 大澤 清 櫻間一彰 新井祐一

大瀧秀和 佐野 禎 橋本武治 石本健太郎 目黒将司

小長谷賢司 齋田尚彦 横山 仁 塩家吹雪

■高四十三回 塩蔵庸夫 千代延尚 荻原孝明 古賀淳也

小林義明 伊藤正規 松本祐一 服部謙太郎 上原弘行

中田一郎 針谷寿紀 中村步希 山辺邊康史 西平敦郎

志村文規 野口拓栄 寶島瑞矢 齊川英明 佐藤高朗

■高四十四回 石山健司 北村彰浩 丹波宏崇 兼坂 進

中村雅知 谷 淳 加藤 立 近藤一彦 藤田 啓

佐藤竜夫 芦原健雄 木下侑雄 永見健一 渡邊卓也

■高四十五回 赤田正樹 土生健二 青木和久 作田宏記

中島信之 岡田浩典 中野隆之 平野大介 齊田拓也

下村大樹

■高四十六回 小山田弘毅 宮田宏明 柴崎直樹 近沢久紀

金子 隆 石川嘉博 北澤卓弥 谷口正太郎 南部雅文

涌井嘉人 荒井昌之 長谷川浩一 鈴木健次 渡邊信貴

■高四十七回 青江覺峰 森吉 寛 大澤良一 伊藤秀典

今氏照樹 島村正夫 柳沢明思 高野知明 中村紘大

寶島祥史 加藤慎二 関根傑紀 竹内公二 三代泰平

■高四十八回 菊地洋一 小林昌弘 二井内学 美馬正治

大竹雄介 鈴木善敬 橋本直人 稲葉泰士 稲生雄一郎

佐藤卓也 徳永理利 中村織雄 新谷健一 古見高広

増田健次 柳沼 良 神尾啓介 芦原康夫 石井清久

黒田真司 小宮秀介

■高四十九回 町田 健 米山航史 柴田裕介 田巻剛志

早川和樹 堀 洋平 増田 望 室田尊博 相上博哉

宇佐公隆 星 強 吉川高広 安井 督 池田純平

上野光信 小澤 正 森貴洋 中溝健晴 近藤大介

曾山一壽 千種伸宜

■高五十回 伊藤充輝 池畑将希 倉持尚弘 小林高明

横山純一 相沢和彦 北村朋之 下関秀之 岡田有道

島村有希 辻 大樹 乾嘉 宏 清水真寛 瀨尾健仁

網島宗介 古川浩司 山下拓也 吉河秀郎 瀧川道生

中原 淳 伊東正史 松本恭一 柳川忠之 今成祐典

財津宜史 新村光央 津久井尚 野村耕太郎 堀部耕生

■高五十一回 天野秀忠 岡田晃佳 佐々木龍平

鈴木俊輔 野本義晃 松本隆寿 新島 聡 秋田真孝

梶野貴経 白石佑一 高田共宏 立澤広平 藤田一司

山崎浩史 須賀裕哉 荻原将明 尾上政史 藤井真俊

松井玲央 松岡孝介 阿部智則 新井亮輔 稲嶺貴志

田中陽太郎 中田孝宏 増田幸久 溝渕 亮 鎌形博展

五反田賢治 関口浩介 高月忠昭 滝澤一晴 行木達朗

茨田康弘 藤岡裕起 村上 寛 若杉文寛 相澤将士

谷澤文雄 津久田愛之助 中山寿夫 中村義一 中里盛次

根立光夫 丸橋 修 松坂忠明 松本易夫 松本幸司

前田明男 渡辺 勝 久保田義喜

■高七回 秋元幹夫 有田常義 井嶋佳二郎 平田満男

益川雄治 山内 周

■高八回 金子隆一 勅使河原宏記 藤巻健三 南谷 修

■高九回 芥川定義 鶴沢速雄 田辺博昭 西江正晴

長谷幾夫 比企正憲 水野耕一

■高十回 青木弘三 岡本信也 小川 紘 上岡光男

上本清治 鈴木寿邦 塚原静夫 中河秀行 堀溝諱治

茂出木義雄 山崎 昇 八木橋実 亀井俊一 小川 紘

■高十一回 太田善夫 小池弘祐

■高十二回 市倉洋一 久保国夫 熊木宏治 辻本 靖

西野保博

■高十三回 安達義道 相川 清 大森章夫 加毛 隆

方波見茂 清川洋吉 齋藤 毅 中村 久 渡辺則綱

■高十四回 葦原謙一 千野英明

■高十五回 新 安雄 杉山雅一 高田隆義 田村静夫

峰岸桂介

■高十七回 池田 明 小野寺良雄 賀澤光浩 野田祐二

星野光明

■高十八回 子田保 小松良栄 斎田与四郎 丹波信三郎

宮沢正喜 小倉義雄

■高十九回 有馬壮一郎 石原崇光 遠田守利 沼尻 卓

毛利悦久 吉倉幸信

■高二十回 我妻光久 井上信一 大田準吉 大橋二郎

大野英治 後藤文雄 小林基展 坂井秀雄 中島芳夫

清水金平 関塚正治 戸張友晴 野水國一 堀部雅美

町田準一 矢代順一 良川 真 長洲 守

■高二十一回 菊池正美 杉山利博 鈴木 亨 中里勝男

西 正規 早川盛男 矢澤秀治

■高二十二回 遠藤達哉 岡村光雄 大恵淑行 桜井武男

鈴木 順 鈴木正治 瀬賀春雄 中島二郎

■高二十三回 芦立敏朗 太田 治 加藤弘明 高橋一夫

高橋 博 中村厚人 仲原辰男 飛田 茂

■高二十四回 石原 涉 関田 晃 掛川俊行 進藤久幸

田中良一 寺田正美 野田悠二 日高詳介 松島和己

村上信夫

■高二十五回 佐野 義 坂井成一 莊子隆之 田島秀行

千野邦雄 長沢弘幸 平田 清 松崎敏弘 山口 登

吉田徳義 吉波行男

■高二十六回 伊藤正彦 伊藤 豊 岩崎 一 遠藤和良

窪田欣志 笹沼博之 柴安 弘 杉浦 昌 立花英一

立入健司 平野隆之 松平善明

■高二十七回 安部昌治 秋山喜弥 岡村桂一

長瀬弘一郎 並木嗣男 原田俊幸 森田隆也 吉田雅行

■高二十八回 井口 隆 岡野智彦 河野行広 黒沢邦夫

小門淳一 小林博貴 田中 実 中井雄一 藤嶋雄二

堀江至久 松原祐行 山本和弘

■高二十九回 安住高弘 石塚 実 飯泉彰裕 大久保実

大橋弘明 香川耕二 小二田洋士 佐藤 孝 島 幸男

菅野弘一 高木敬一 丹野修辞 船見春夫 藤井政夫

細井實 松本俊一 森山昇一 横山鉄夫 渡辺嘉伸

■高三十回 朝香 等 小川雅也 神山国香 佐藤修一

富永浩伸 杉林正敏 鈴木宏昌 土村弘己 中村貞司

矢作 明 山田 隆 吉田法夫

■高三十一回 佐藤修一 富永浩伸 土村弘己 中村貞司

山田 隆

■高三十二回 小池 治 齋藤政嗣 清水一郎 永堀義秀

長沢伸泰 原 哲夫 三ツ田英司 山崎伸二

■高三十三回 中田雅之 磯田浩之 岩田 実 猪俣博之

宇賀神茂 遠藤千秋 小口邦夫 鈴木英雄 鈴木康悦

滝本 学 西 洋一 別所 篤 丸山 茂 富田 仁

吉田秀樹

■高三十四回 荒井宏政 金子泰久 野中武司 平澤賢也

渡邊哲宣

南



本年度の文化祭は
9月23、24日です。
卒業生の御来場を
お待ちしております。

平成13年6月1日発行

本郷学園同窓会

発行責任者 村松 達夫

☎170-0003 東京都豊島区駒込4-11-1 本郷学園内
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。

FAX：03-3917-0007

齊藤光広 橋爪雄志 服部大祐 濱野和明 堀越 亮
 山田道夫 宇田順也 乙丸貴史 坂口大介 櫻井勝夫
 鴨原昌也 染谷快典 丹羽大輔 皆川裕司 吉野一哉
 若西良介 植村典和 江幡貴人 大塚久仁郎
 ■高五十二回 井上健太郎 今田卓郎 岩井 謙
 河原輝久 倉持貴行 高橋淳一 田沼裕介 岩田雅史
 佐藤正洋 嶋田亮輔 関澤泰明 高橋智久 高邊宏幸
 成瀬隼人 長谷川智洋 吉野泰光 小橋裕之 諏佐肇
 平塚晃一 藤本耕平 向井崇平 新井慎一郎 上田雄邦人
 鈴木常太 千田昌宏 出口輝明 生江昌史 松本匡志
 阿部英人 鬼武 陸 小島 聡 櫻田啓太 相馬利夫
 竹内潤一 野村高峰 岩沢哲朗 加藤隆之 坂田憲和
 津田俊之 長岡理大 仁木篤志 平野尚司 藤澤健夫
 落合祐之 菅原洋介 高野雄貴 木下紘一 篠原洋次
 近藤忠博 関根佑輔 田中大輔 松澤一応 横山辰也
 赤松 篤 朝川 仁 猪越正直 大塚邦紀 小谷一仁
 嶋田洋太 長谷川圭吾 深井 大 伊田健一郎 小玉裕和
 谷口竜太



役員

会長 村松 達夫 (中十七回)
 副会長 宮本 幸雄 (中十五回)
 望月 敏郎 (高二回)
 篠 喜三郎 (高六回)
 秋元 幹夫 (高七回)
 丹波信三郎 (高十八回)
 関塚 正治 (高二十回)
 田中 良一 (高二十四回)
 寺田 正美 (高二十四回)